

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成30年度第2回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成30年8月31日(金) 午前10時～午後0時
開 催 場 所	市役所4階 401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員5名 欠席者：委員2名
議 題 等	1 平成29年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について 2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 推進委員会の意見はまとめて、主管課にフィードバックする。 2 次回の会議は、9月18日(火)午後6時からとする。 次期総合戦略策定に係る意識調査案について、意見があれば9月7日(金)までに事務局宛てにメールでいただく。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 平成29年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について (事務局) 平成29年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明 —質疑・意見等— 基本目標1 (委 員) 「広報戦略の策定」と「ツイッターのフォロワー数」について、29年度実績が31年度目標を既に達成しているが、目標値を見直した方がよいのではないかと。 (事務局) 毎年度目標値を見直してはいない。総合戦略策定時に掲げた目標値に向かって、平成29年度末にはどこまで達成できたかを示している。 (委 員) 最初の目標値の立て方が重要である。 (委 員) 例えば、広報戦略の策定について、広報戦略がどのように活用されているかまでは検証する必要はないかと。 (事務局) 本委員会ではそこまで求められていない。 (委 員) 「空き店舗活性化事業への支援」について、空き店舗を活用した事業数は0事業とのことだが、どのような取組をしているのか。 (事務局) 創業支援事業を実施しているが、受講された方が市外で起業されている例が多い。空き店舗は元々多くない。 (委 員) 現在の創業塾の塾生は少なく1～2人で、市外の方である。市民に周知して、起業意欲のある市民を掘り起こす取組がないと、塾生は集まらないと思う。地方での成功例があるので、アクションをおこすべきである。 (事務局) RESASの企業間取引を分析し、企業誘致策なども検討中である。 (委 員) 創業支援の他市の取組状況も把握した方がよい。情報交換は大切である。 (事務局) 創業における気運醸成やPRが必要である。ふれあいセンターではプチ起業フェスタなど、起業した方の成功例を交えたPRをしている。

- (委員) プチ起業フェスタは事業主を育てるために行っている。例えば、そこで空き家を活用してチャレンジショップを立ち上げるなどの取組を行うと、気運も盛り上がるのではないかと。
- (委員) 東大和市の創業塾に参加したことがあるが、たくさんの方が参加しており、市外の人でも歓迎してくれる雰囲気であった。土日の昼に開催していたので、行きやすかった。
- (委員) 武蔵村山市でも土日に開催しているが、興味のある方に情報が届いていないということはPR不足か。
- (委員) 小平市などでもチャレンジショップのような取組はある。
- (委員) 他市で起業されている市民はいるので、もったいない。
- (委員) 駅がなくても武蔵村山市ならではの良さを活かした起業はできるのではないかと。
- (委員) やはり周知が大切である。創業希望者の声を拾い上げるハブがない。市役所の窓口で創業相談を受けてもよいのではないかと。
- (委員) 市長への手紙を出したことがあるが、かなりあっさりとした回答であった。市長等は見ているのか。
- (事務局) 市長への手紙について、市長は全て見ている。回答は主管部署で作成している。
- (委員) 熱い思いをもっている市民はたくさんいる。その思いを集約し、発信する場があるとよい。
行政で最も大切なのは福祉であるので、福祉にお金をかけることはよいと思うが、財源は限られている。市はいかに稼ぐかを重視すべきである。人口流入から税収を上げていく必要がある。そこに対してリスクが多少あっても新規事業を行っていくべきではないか。知恵を出してお金をかけずとも人の力でやっていくアイデアが大事である。
- (委員) 創業支援は商工会とは別に行っているのか。立川市では商工会と市が連携して行っている。
- (委員) 商工会と連携すれば、空き店舗活用もしやすいのではないかと。
- (委員) 創業支援で商工会など横のつながりまで紹介してもらえると、新規参入のリスクが減らせるのではないかと。地域基盤なしに新規参入はしづらい。
- (委員) 創業者を支援する投資家と組み合わせて支援できるとよい。
- (委員) 市が主導して、興味のある企画に投資を募る仕組みがあると創業しやすい。
- (委員) 立川市では、商店街チャレンジャー事業というものがあり、起業の際に100万円を支援していただけた。自分のビジネスプランに加えて、出店する商店街の方たちと連携してプランを練ってプレゼンをするコンテストである。商店街とマッチして行うので、商店街にも市にも受け入れられやすく良い事業である。
- (委員) 「文化財の観光資源としての活用」のKPIである「市民参加による歴史散策コースの設定」は0コースのままだが、目標達成の見込みはあるのか。
- (委員) 今年度中にはコースを決めないと難しいのではないかと。
観光マップの作成は着手しているのか。
- (事務局) 狭山丘陵連携事業の中でガイドブックを作成予定である。
- (委員) 「広域的観光ルートの設定」と連動しているのか。
- (事務局) 狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会（東村山市、東大和市、西武・狭山丘陵パートナーズ、瑞穂町、所沢市、入間市、本市）で設定していく。
- (委員) 狭山丘陵周辺のルートは道沿い以外にあるのか。
- (委員) 丘陵の中を歩いたり、自転車で走ったりしている人は多い。

- (委員) 外国人向けの事業は大切である。立川市には外国人がたくさん訪れているので、武蔵村山市まで呼び込めるとよい。
- (委員) ひまわりガーデンは、来場者数は増えているが事業費もかかっているのか。
- (事務局) 2千万円ほどである。維持管理をシルバー人材センターに委託している。周辺商店街への経済効果はそこまでないかもしれないが、高齢者雇用の面からすると良いという意見もある。費用対効果が低いとも言い切れない。
- (委員) ひまわりガーデンでは出店などはないのか。
- (事務局) オープン初日などは出ている。青空市なども開催している。
- (委員) ひまわりガーデンと商店会が連携できるとよい。
- (委員) 商店街で使えるクーポンを配布する取組はしていた。
- (委員) ひまわりガーデンに出す屋台と創業塾との連携もできるとよい。
- (委員) 全体として、お金を稼げるようにしてほしい。
- (事務局) モノレール延伸に向けても人を呼び込む取組は必要である。

基本目標2

- (委員) 「婚活への支援」「教育環境の整備」の進捗状況が×となっている。
- (事務局) 商工会で婚活支援を行っている。
- (委員) オリジナル婚姻届を作成したのは武蔵村山市が先駆けである。立川市や国立市では記念撮影ができるコーナーなどを作っている。イベントでなくても、結婚にまつわる、役所でなければできないことができるとよい。
- (委員) うまく民間を巻き込んで、地元と連携できるとよい。
- (委員) 「休日保育の充実」について、目標は1か所とあるが見込みはあるのか。
- (事務局) 話は進んでいるようである。
- (委員) 認証保育所で実施してもよいのではないか。
- (委員) 「適応指導教室からの学校復帰率」が0%であるが、在籍した子どもがいなかったということはあるか。
- (事務局) 在籍している子どもはいる。一部復帰率は40%だが、完全復帰率は0%である。
- (委員) 対象は小学生と中学生か。
- (事務局) そうである。
- (委員) 中学生の方が、不登校出現率が高い。
- (委員) 「適応指導教室からの学校復帰率」において、課題に書いてあることは理解できるが、書き方を変えてほしい。どういうことで0%だったのか、一部復帰率は伸びているので、そのあたりの関係を書いてほしい。
- (事務局) 修正するようにする。
- (委員) 中学校卒業までに復帰できなかった子どもはどうなるのか。
- (事務局) 確認する。
- (委員) 「ワーク・ライフ・バランスの推進」において、企業向けアンケート調査はいつ行うのか。
- (事務局) 市民向けアンケートは次期長期総合計画と一緒に行ったので、既に締め切っているが、企業向けのものはいつ行うのか確認していない。
- (委員) ワーク・ライフ・バランス推進事業所の認定件数が平成31年度までに4件という目標になっているが、間に合うのか。
- (事務局) 認定制度を構築中である。認定において企業側にメリットがなかなかない。

	<p>(委 員) 立川市では最初は企業集めに苦労していたが、今では企業からの応募もたくさん来ているようである。</p> <p>(委 員) このような認定を企業が受けているかどうか、就活中の学生は気にしている。特に中小企業はそうである。</p> <p>(事務局) 企業がワーク・ライフ・バランスに力を入れていることを学生向けに発信できるようになるなどのメリットはある。</p> <p>(委 員) 世の中の意識も変わってきている。</p> <p>(事務局) 東京都が同じ認定制度を設けているので、市が東京都への推薦をするような制度設計ができるとよい。</p> <p>(委 員) また、ワーク・ライフ・バランスの推進における課題の書き方を見直してほしい。</p> <p>(委 員) 「男性市職員の育児休業の取得率」は14.3%と伸びている。</p> <p>(委 員) 民間企業では育休中の人員補てんは大変な課題である。</p> <p>(委 員) 小中一貫校の目標の4校は見込みがあるのか。</p> <p>(事務局) 既に施設一体型と施設隣接型で1校ずつあるので、施設分離型として2校増やしたいという目標である。</p> <p>(委 員) 「小・中学校特進講座」「部活動支援事業の実施」における課題の書き方について、不採択後の対策等を記載してほしい。</p> <p>2 その他</p> <p>(事務局) 第3回の会議は、9月18日(火)午後6時からとする。</p> <p>(事務局) 別紙1～3で配布している次期総合戦略策定に係る意識調査案について、意見等がある場合には、9月7日(金)までに事務局にメールでお寄せいただきたい。</p>
--	--

会議の公開・ 非公開の別	<p>■公 開 傍聴者： <u> 0 </u>人</p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非 公 開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>
-----------------	---

会議録の開示・ 非開示の別	<p>■開 示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示(根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/>非 開 示(根拠法令等：)</p>
------------------	--

庶務担当課	企画財務部 企画政策課(内線：374)
-------	---------------------

(日本工業規格A列4番)